

芸術文化観光専門職大学学長の業績評価書

令和5年7月27日

芸術文化観光専門職大学学長選考会議

芸術文化観光専門職大学学長業績評価規程（以下「規程」という。）第2条第1号に基づき、平田オリザ学長について、学長就任後2年が経過した時点における中間業績評価を行いましたので、その結果を公表します。

1 評価方法

兵庫県公立大学法人評価委員会が作成した評価書における評価、及び学長から提出のあった自己評価書における自己評価を業績評価の対象とし、規程第5条に基づき、学長に対してヒアリングを行った。

2 評価結果

【総合評価】

新型コロナウイルス感染症への様々な対応が必要な中での開学であったが、自らトップセールスを行い、高い志願倍率、全国から集う志願者、入学者の85%が第一志望など全国から注目される大学としてスタートを切っている。

兵庫県公立大学法人評価委員会による評価結果等を踏まえ、教育、研究、社会貢献、管理運営の各分野において、全体として順調かつ着実に、第二期中期計画等に記載された取組を進めていると評価する。

引き続き、第二期中期計画の達成に向け、地域活性化に寄与する大学として発展していくことを期待する。

他方、開学から2年しか経過しておらず、組織運営システムを早急に整備し試行錯誤で運営してきたところもあり、組織のマネジメントや教職員間のコミュニケーション面などにおいて、今後の残りの任期における改善が望まれる。

(1) 教育

- コロナ禍にあっても、学長のリーダーシップのもと、原則対面での授業実施方針を堅持し、大規模なクラスターを発生させることなく、ほぼ全ての授業を対面で実施したことは評価できる。
- 1コマ120分という長時間の授業設定を生かし、多くの授業をアクティブラーニング化し、知識・技能の定着を図った。
特に、「コミュニケーション演習」「知と表現のデザイン」などの授業を通じて、大学での学びに必要なコミュニケーション能力や様々なリテラシーを確実に身につけていることは評価できる。
- 必修科目である「芸術文化と観光」が2年連続で学生理解度が80%を超えるなど、各科目における学生理解度は高水準であり、計画どおりの学びが担保できている。
- 入学者志願倍率は開学以降3年間高い倍率を維持しており、本学の知名度も年々増している。これは、学長自らのトップセールスの効果及び1コマ120分、クォーター制、1年次全寮制など独自性のある教育システムを整備したことによるところが大きい。

- 学生の将来ビジョンの実現に向け、1年次、2年次の早期の段階から様々なキャリア形成支援を実施していることも評価できる。

(2) 研究

- 令和4年9月には、開学後初めてとなる研究紀要「芸術文化観光学研究」を発刊し、多くの教員が寄稿した。原著論文3本のほか研究ノート8本、活動報告5本を収録しており、新しい研究と学びの形を学内外に示したことは評価できる。
- 本学教員の研究分野をまとめた「研究シーズ集」を作成し、地域の企業・団体・行政・地域住民・金融機関等からのニーズと教員の研究シーズのマッチングを促進し、学生も参加する実践的な研究を活発化させている。
- 一方で、教員の科学研究費補助金の申請者率がやや低迷しており、中期計画の目標達成に向けた対策が必要である。

(3) 社会貢献

- 地域リサーチ&イノベーションセンター（R I C）では民間企業や地元自治体との連携を受託事業として累計51件のプロジェクトを成立させるなど、質量とも確実に拡大しており地域からの評価も高い。
R I Cプロジェクトは活動が活性化している一方、教員の参画率が伸び悩んでおり、大学としてさらなる工夫や環境整備が必要である。
- リカレント教育として受講者から好評を得ている公開講座や、コミュニケーションに係る小中高校でのアウトリーチ教育活動など、地域において大学の知見を生かした教育を広く提供できている。
特に、但馬地域の18校の高校を対象に演劇的手法を活用したワークショップを2年続けて100回近く実施し、生徒の潜在的コミュニケーション能力を引き出す機会を創出し高校等からの高い評価を得ている。
- 開学直後、新型コロナウイルス感染症の蔓延で抑制されていた国際間の交流も盛んになりつつあり、海外大学等との交流・連携協定の締結も順調に進んでいる。引き続き、海外との教員・学生の交流を活発化させ、地域の国際交流につなげられたい。

(4) 管理運営

- 各種委員会、センター会議を整理し、副学長の分掌を明確化することで、問題の整理と課題解決が円滑に進むようになった。また、教員評価制度のシステム化を図ったこと、各教員の適性などを考慮し、的確な人員配置を進めてきたことは評価できる。
- 一方で、委員会・センター運営における教員間の負担の偏りなども一部で指摘されており、副学長等と協力して大学運営におけるさらなる改善を期待したい。
- 女性教員比率は、中期計画目標値（25%）を達成しているが、次期中期計画の目標値を高く設定するなど、一層の女性教員の増加・登用に尽力されたい。
- この間、ハラスメント事案など大小のインシデントが発生しており、再発防止に全力を尽くすとともに、問題解決の意思決定を迅速に行うために、各部署のリーダーシップ機能を向上させ、ガバナンスの強化に取り組んでいくことが必要である。